

「大坂の史跡を訪ねて」

連載15回目 ～御堂筋周辺 その1～

おさたに よしはる
長谷 吉 治

土佐堀川・堂島川周辺その5を紹介させていただく前に、淀屋橋を少し南下し、御堂筋周辺に寄り道したいと思います。

勝海舟寓居跡（専稱寺跡） 中央区淡路町3丁目2-13、14

勝海舟は、文久2年閏8月17日、軍艦奉行並に就任し、その年の12月、軍艦順動丸で大坂天保山に投錨し来坂しました。その後、ここ大坂を基盤に兵庫、泉州、紀州などを訪れ、砲台の設置場所などを吟味しています。

「海舟日記」によりますと、文久3年2月27日に『朝、上陸。安治川一丁目順正寺旅宿に到る。(以下省略)』とあり、「順正寺」を大坂の寓居先にしていました。

場所は、現在の福島区野田一丁目、中央卸売市場の辺りにありました。勝海舟は、その後すぐに寓居先を変更します。

「海舟日記」によりますと、文久3年3月朔日には『(前文省略)大坂へ船行。此日、旅宿を北溜屋町真正寺に定む。坂下[本](坂本龍馬)、新宮(新宮馬之助)、京師より来る。』とあります。

この日より、元治元年11月10日、軍艦奉行を罷免され、東帰を命じられるまで、この寺を大坂の寓居としていました。

一時、文久3年6月13日より約3か月間江戸へ帰っていましたが、再び来坂を命じられ大坂に戻ってきます。文久3年9月9日、「海舟日記」には『暁、天保山沖へ入津。同日、雅楽頭殿はじめ役々、上陸、専修寺旅宿へ入る。』とあります。

勝海舟の寓居先の手がかりはこれだけでしたので、調べるのはたいへん苦労しました。

結果的には、「北溜屋町」や「真正寺」という地名や寺名は存在しなかった、ということが後でわかりました。また、「専修寺」は、今の此花区西島3丁目に現存していますが、幕末当時、

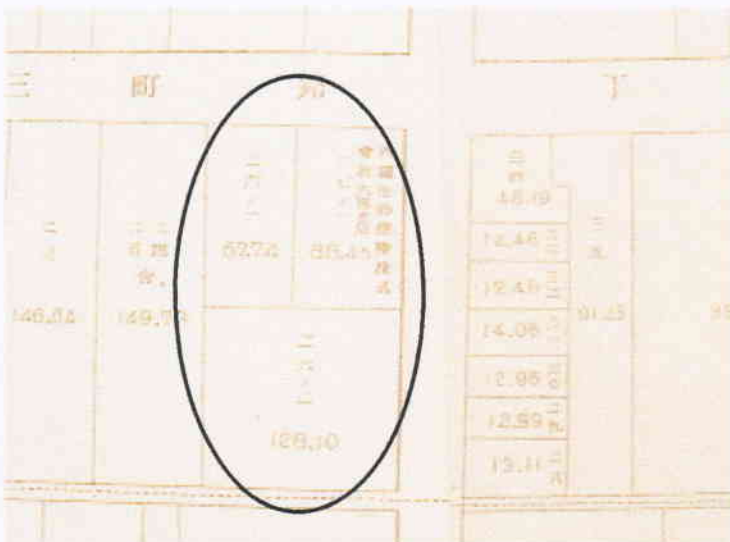
「専修寺」は堺にあり、明治になってから此花区に移りましたので、勝海舟の寓居先とは全く関係ないこともわかりました。つまり勝海舟が、日記に誤って記載したのではないかと考えられます。また、最初の寓居先「順正寺」も勝海舟の誤記ではないかと考えましたが、

『慶応四年目録』(川口居留地開設直後の外国人との応対や外国事務局の動静を記す資料)に『(慶応4年)九月二日 亥 晴 (途中省略) 安治川上壱丁目 順正寺へ丸亀人数旅宿申付置候処、(以下省略)』と記されていますので、実存が確認でき、勝海舟が寓居先として使っていたことは確かなようです。「順正寺」はその後、西区京町堀、東淀川区と移転し、昭和34年に廃寺となっています。

ところで、正式な寓居先は、当時の北鍋屋町にあった浄土真宗「専稱寺」というお寺でした。北鍋屋町は町名の変更で、大阪府中央区淡路町3丁目になり、その後、区画整理などで更に変更



勝海舟



明治44年の古地図 (○印: 専稱寺跡地)

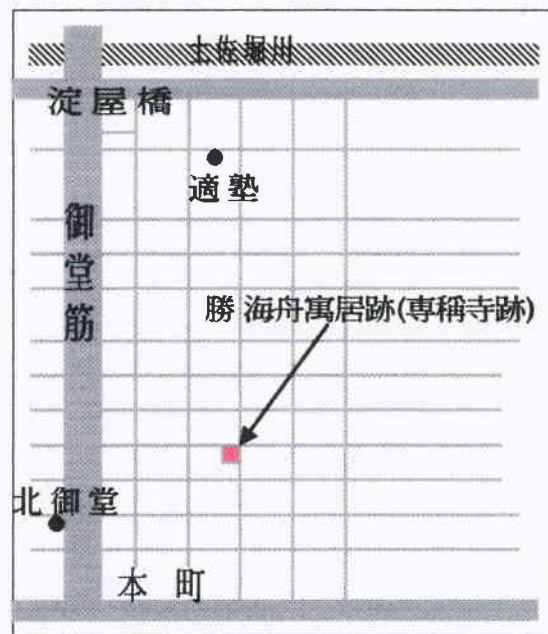


現在の勝海舟寓居跡 (専稱寺跡)

し、現在の大阪府中央区淡路町2丁目5～6、淡路町3丁目1～2辺りが昔の北鍋屋町に該当します。

この専稱寺は、北鍋屋町のどのあたりにあったのでしょうか？ 大阪府立中央図書館の職員さんにもご協力いただき、いろいろ調べていただきました。更に、大阪府史の研究をされている顧問の某先生にまで助言を頂きました。確証がとれる資料は残されていませんでしたが、『北鍋屋町水帳』（安政3年の作成）と『大阪地籍地図』（明治44年作成で番地が掲載されている最古の大阪市地図）から判断しますと、現在の大阪府淡路町3丁目2-13（スワン大阪第一ビル）及び2-14（ノリタケビル）あたりだということがわかりました。

『北鍋屋町水帳』は北鍋屋町にあった建物すべての持ち主と建物の横幅、奥行き寸法が記載されています。それら建物一つ一つの寸法と地図を見比べていくと、どうやら前記の場所だという結論になりました。今回は、図書館に保管されている貴重な資料を実際見ることができ、いい経験をさせていただきました。ご協力いただいた大阪府史の先生及び図書館のみなさん、どうもありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



以下、この専稱寺に関する記事を取りあげていきます。

① 浄土真宗 専稱寺

「専稱寺」は「東区史」にも記載されており、確かに北鍋屋町にあったことが確認できます。また、神戸市葺合区吾妻町に移ったことも記載されていました。葺合区は今の神戸市中央区にある葺合警察署付近です。先日、移転先である神戸の「専稱寺」さんを訪れてみました。突然の訪問にもかかわらず、ご住職さんは、快く対応してくださいました。

「勝海舟の寓居先だったのは本当ですか？」とお伺いすると、やはり、勝海舟と専稱寺とは関連があり、それに関する資料も残っていたということが、代々語り継がれていたようです。その資料の中には、坂本龍馬に関する資料もあったそうです。龍馬がこの専稱寺にお世話になった記念に、絵のようなものを残していたとか。ご住職さんがその話を聞かれた頃は、歴史にさほど関心をお持ちでなかったもので、「絵のようなもの」としか記憶されていないそうです。しかし、震災でそれら貴重な資料はすべて焼失してしまい、今は確認することができません。本当に残念なことですね。

「専稱寺」は、浄土真宗本派本願寺門下で、慶長13年（1608）12月28日、祐性という僧が、北鍋屋町にて開山します。その後、幕末に勝海舟が寓居先として利用することとなります。

明治31年10月に、同じ大阪府内で旧東区にあった中本大字森に移転します。



現在の専稱寺



明治33年9月3日には、市の許可を得たうえで神戸市葺合区に移転しました。
 その場所は、現在の葺合警察署付近だったようですが、戦災等で更に神戸市中央区南本町4丁目に移転し、現在に到っているそうです。
 ご住職さんにお話をお伺いした後、境内を見せていただきました。
 そこには浄土真宗の祖 親鸞上人の銅像が建っていました。
 勝海舟は文久3年3月より9月24日までの約半年間、寓居先である専稱寺にて海軍塾を開いていましたが、後に神戸に移しました。
 神戸海軍操練所並びに勝塾（海軍塾）跡地からもそれほど離れていない地に専稱寺が移ったのも、何か不思議な縁があったような気がします。



現在の専稱寺



専稱寺境内にある親鸞上人像

②大坂海軍塾（勝塾）跡

☞「海舟日記」によりますと文久3年6月26日に『大坂より、倭次郎、半兵衛、来る。聞く、大坂の塾へ、長藩五十人程来たり、凶書殿を打つ企を告げ同志を募ると云う。龍馬子、これを説解し、敢えて同ずる者なし。』とあり、文中に大坂の塾という文字が出てきます。
 勝海舟は、大坂の寓居先である専稱寺に海軍塾を開いていました。勝海舟は、門地に拘らず、能力のある人材を発掘し、海軍士官を養成し日本の海軍、いわゆる「一大共有の海局」を目指し、自身の私塾として海軍塾を開塾しました。塾生には、勝海舟のもとに集まった弟子、つまり坂本龍馬をはじめとした土佐脱藩浪士、藩から教育の要請を受けた紀州藩士、鳥取藩士、福井藩士などがいました。塾頭は、海舟の片腕として活躍した庄内藩出身の佐藤与之助でした。
 文久3年9月24日、勝海舟は神戸海軍操練所の開所準備のため神戸に移り、私塾も大坂より神戸の寓居先（現在の三宮センター街）に移します。勝海舟は、10月に上京し松平春嶽を訪れ、次のように述べています。

『神戸操練局の事、並びに天下の海軍を立て、普ねく諸藩と士民とを論ぜず、人物を集め、その器に応じ将となし、士となし、門地の旧弊を止め、學術を以て募り、皇国興起の一大海局と成さんことを申す。』（『海舟日記』より）

